

禁断の菌に見た物は

高橋 勝雄

平成 22 年 10 月の半ば、T 県 K 市、市街地より山中に入ること約 40 km に鎮座する、下神社に参拝する機会をもちました。

下神社の歴史は古く、この周囲一帯の広大な土地を有し、1300 年前、更に奥地に修業の場を造り、修験者の育成を図ったと謂れて居ります。その場所は、下神社よりつづら折りの急坂を車で登る事、約 20 分、標高 1300m の原生林の奥深く、小さな祠がご神木に囲われ建立されていました。又、下神社の日本庭園を観る事も出来ました。この庭園の歴史も古く、江戸時代の名のある武将、茶人、俳人が訪れたとも謂れ、茶室、庵、等の建造物も残っているとの事です。事実、一步園内に足を踏み入れれば、自然の山地とは全く違った風景が、深みゆく秋に味わいを添えて居りました。程々に手入れの行き届いた園内、色付き初めた雑木類の梢、人工樹と自然樹の配置、木々の間に建つ古き建造物、大きな人造池には大きな鯉の群、少し隆起した場所には常緑樹の杉の巨木、何百年の歳月と風雪に堪え忍び、天空を仰ぐが如く育って居りました。大地に目をやれば、色鮮やかな緑の苔が恰もジュータンを一面に敷き詰めた様に見えるのでした。

散策路を登ってゆくと、所々に黒茶色の切株が目について来たのです。その内の何株の側面に白い付着物が見受けるのですが、それが何ものであるのか、その時点では知る由もありませんでした。そして暫く進むと、隆起した奥 30m の所に真白な切り株が 4、5 本見えて来たのです。私は歩みを止め、自問自答を始める… 彼処に見えるものは「きのこ」か？ …その正体を確かめろ…と自分自身に言い聞かすと、無意識の内に柵を跨ぎ、苔のジュータンの中に足を踏み入れて居りました。…その時点の私は心無い自分自身の行ないを顧みる余裕はありませんでし



マツオウジを手にする筆者

た。只、只、目先の物に心を奪われた、夢遊病者と等しい者でした…。柵越から僅か 30m の距離がどんなにか長く感じられた事か、目標地に近づく毎に、期待と不安とが全身を包み込んでしまうのでした。程なく、待ち焦れた場所に到着、弾む胸の鼓動を抑えつつ足元を見れば、どっかりと腰を下した、大樹（杉）の切株。それらにまとり付く、大量の杉平茸：スギヒラタケ、正に城、城、城、何れの城には、柔らかい若茸が波打つかの如く群生して居りました。これだけ沢山のスギヒラタケの城に出合う機会は今後再びない事と思います。

省り見れば、これも「禁断の定」を破った。役得でしょうか… 私は恐ろしく白く柔らかいひだに指先を触れ、2～3 枚を挽取り、急ぎその場を後にしたのです。大量の自然の恵みを目前にして、何故採集しない理由は、「管理人等に見撃されてしまう事の恐れが…」と思うと私は急ぎその場を後に、管理人棟へ向いました。そして出生している「きのこ」の採集の可否を問うと、解答は「否」との返事でした。帰り径、少

量の出生株を2～3枚写し、園を後にしたのです(写真)。園のパフレットを見ると、注意事項には、写真、柵の中への立入り、植物の採集等、記載されて居りました。私は恥ずべき自分の行動を深く反省すると共に、山深き秋の自然を十分に味わった一日であったと思って居ります。…禁断の菌よ有難う…と。

注：スギヒラタケは、以前ひろく食用とされていましたが、2004年（平成16年）にスギヒラタケが原因とされる急性脳症が多数報告され、現在は毒菌として扱われています。とくに腎機能が低下している人の事例が多く、その後、赤血球や白血球を破壊して急性の貧血を起こす物質が含まれると指摘され、血球が破壊された結果、腎臓障害が悪化する可能性があるとのことです。充分注意しましょう。（編集担当）